

(様式第11号) (第24条関係)

太陽光発電施設設置届出書

2024年8月26日

長野県知事 様

住 所 長野県長野市大字中御所字岡田178番地8
氏 名 八十二Link Nagano株式会社
代表取締役 社長 神谷 健一

長野県地域と調和した太陽光発電事業の推進に関する条例第24条第1項の規定により、下記のとおり届け出ます。

記

太陽光発電施設の設置の場所	別紙のとおり	
事業区域の位置及び面積	別添「位置図及び事業区域図」参照 28,000.0m ²	
太陽光発電施設の合計出力	1625.0kW (太陽電池の合計出力2,208.96kW)	
太陽光 発電事 業の内 内容及び 実施予 定期間	発電電力の用途 <input checked="" type="checkbox"/> 売電 <input type="checkbox"/> 自家消費 設備ID (なし オフサイトPPA方式により長野県内の企業 に電力売電予定)	
	設置工事着手予定日	2024年9月25日
	設置工事完了予定日	2025年10月14日
	運転開始予定日	2025年10月14日
	施設撤去予定日	2045年10月14日
太陽光発電施設の設置に関する計画	別添「太陽光発電施設設置計画書」参照	
太陽光発電施設の構造に関する事項	地上設置型太陽光発電システムの設計ガイドライン等を参照の上、設計会社による構造(強度)計算を行い、架台について風雪に耐えられる仕様とする。	
景観保全のための措置の検討に関する事項	別添「景観の保全のための措置の検討状況書」	
環境の保全のための措置の検討に関する事項 (※環境配慮区域に太陽光発電施設を設置する場合に限る。)		

備考	連絡先 八十二Link Nagano株式会社 (電話番号) 026-225-6482 (FAX番号) 026-225-6483 (電子メールアドレス) customer@82ln.co.jp
----	--

注1 該当する□内に△印を記入すること。

2 「太陽光発電施設の設置の場所」欄は、届出に係る太陽光発電施設の事業区域が所在する土地の地番全て記載すること。

3 「事業区域の面積」欄には、小数第1位まで記載すること。

4 「太陽光発電施設の合計出力」欄は、小数第1位まで記載すること。

5 「発電出力の用途」欄は、再生可能エネルギー電気の利用の促進に関する特別措置法（平成23年法律第108号）第9条第1項の規定による申請手続中の場合は、その旨を記載すること。

6 「備考」欄は、電話番号、FAX、電子メールアドレス等の連絡先を記載すること。

- (添付書類)
- 1 位置図
 - 2 事業区域図
 - 3 太陽光発電施設の配置図
 - 4 条例第11条の書面
 - 5 その他知事が必要と認める書類

開発区域内の地番一覧表
所在地

整理番号	町村	大字	字	番地	地目
1	東筑摩郡麻績村	麻	あとつかへ	5051-2	雑種地
2	東筑摩郡麻績村	麻	池の平	5102-2	雑種地
3	東筑摩郡麻績村	麻	池の平	5102-8	雑種地
4	東筑摩郡麻績村	麻	蔵次郎	5137-3	雑種地
5	東筑摩郡麻績村	麻	蔵次郎	5137-8	雑種地
6	東筑摩郡麻績村	麻	池の平	5157	雑種地
7	東筑摩郡麻績村	麻	蔵次郎	5163-1	雑種地
8	東筑摩郡麻績村	麻	蔵次郎	5171	雑種地
9	東筑摩郡麻績村	麻	蔵次郎	5175-5	雑種地
10	東筑摩郡麻績村	麻	池ノ下	5507-8	雑種地

八十二麻績発電事業 工程表

※冬季は積雪状況を考慮し、作業を実施

	2024年 8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
排水対策工事																
伐採工事																
基礎工事 杭打ち																
モジュール 取付工事																
電気工事																
系統連系工事																
運転開始																

工事車両運行経路



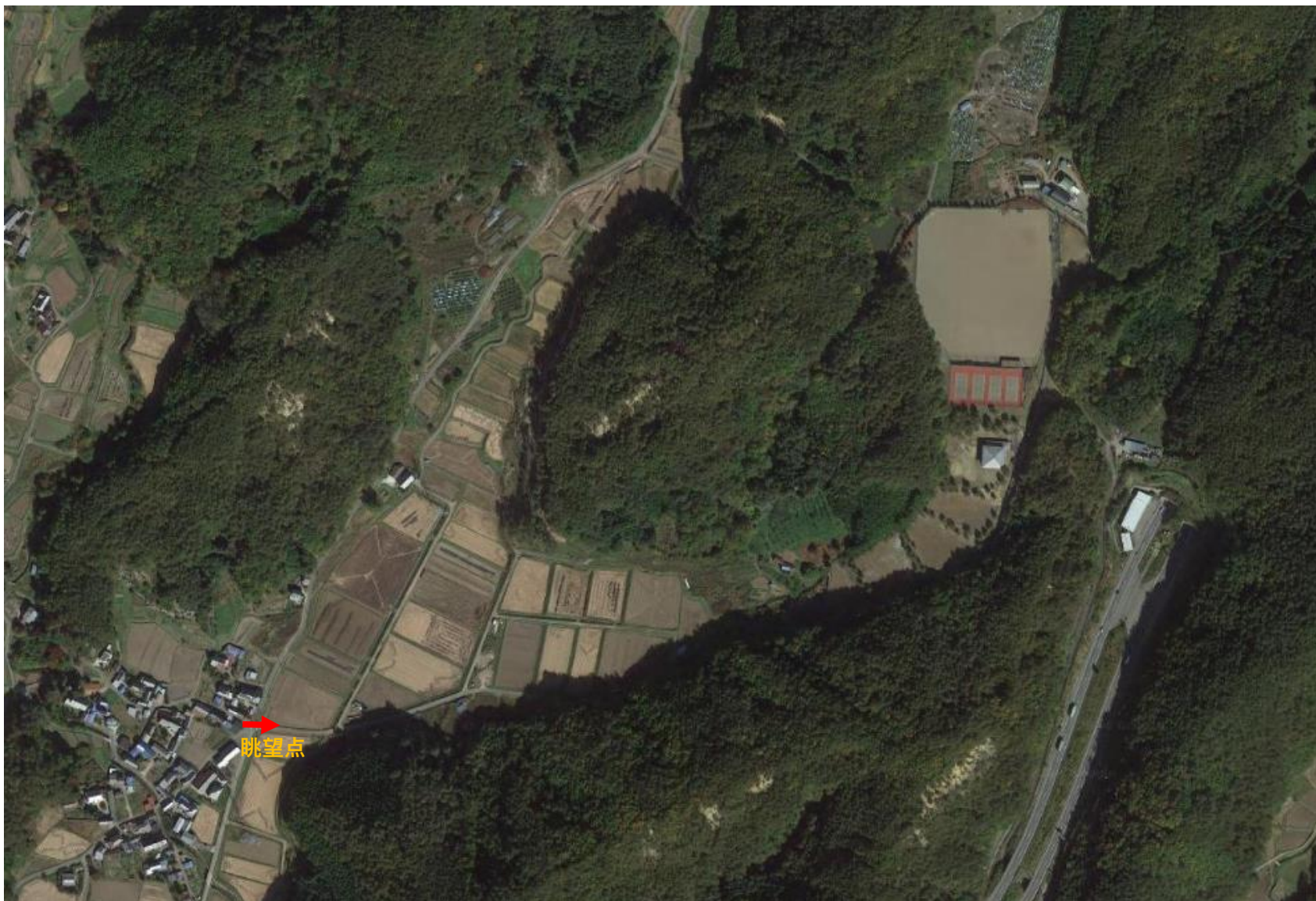
景観の保全のための措置の検討状況書

項目	検討事項	配慮する内容
太陽電池 モジュール	<p>(1) 稜線や斜面上部、高台等、周囲から見通せる場所は極力避ける。やむを得ずそのような場所を選定する場合は、尾根や地形の連続性が損なわれる等の違和感が生じないよう、樹木の伐採や土地の掘削を最小限にとどめる。</p>	<p>斜面や高台ではないが、周辺に林地が広がる敷地であるため、土地の造成や樹木の伐採は必要最小限に留める計画とした。</p>
	<p>(2) 公共的な眺望点からの景観への影響に特に留意し、完成予想図の作成（シミュレーション）等を実施する。 ※検討で作成した完成予想図は添付すること</p>	<p>公共的な眺望点から視認できる場所には位置していないが、約600m離れた公民館付近の道路からの事業用地の方向を示した図を作成した。</p>
	<p>(1) 敷地が主要な道路や住宅の敷地等に隣接する場合は、太陽電池モジュールを境界から一定距離後退させる。</p>	<p>林地に囲まれた場所に位置しており、主要な道路には隣接していないが、隣接道路から10m～12m後退させた。</p>
	<p>(2) 施設の規模や地形等に応じて分割する等、大規模な平滑面が連続することを避ける。</p>	<p>グラウンド、テニスコート、駐車場ごとにパネルを配置すること、アレイ間隔距離を2.2mとすることにより大規模な平滑面が連続することを避けた。</p>
	<p>(1) 周辺からの視界をできる限り遮らないよう、施設の高さは極力抑える。</p>	<p>冬季の積雪を勘案し、パネルの最低部分を1.2m、最高部分を約2mとした。</p>
	<p>(2) 主要な道路や公共的な眺望点から見える場合は、太陽電池モジュールの垂直投影面積を極力抑える。</p>	<p>隣接する道路から見えるため、パネルの傾斜角度を10度（斜面への設置は斜面角度と同等の20度）とした。</p>
	<p>(1) 当該地に応じた架台を選定するとともに、太陽電池モジュールの向きや傾斜をそろえる等、配列に一定の規則性を持たせる。</p>	<p>地盤強度を考慮し、スクリー杭基礎を採用予定。太陽電池モジュールの向きや傾斜は一定の規則性を持たせて配置した。</p>
	<p>(2) 太陽電池モジュールの傾斜角は、周囲の山並み、建築物の屋根等と極力整合させる。</p>	<p>周囲の山並みに影響が少なくなるようパネルの傾斜角度を10度（斜面へ設置は斜面角度と同等の20度）とした。</p>
	<p>(3) 太陽電池モジュールの裏面が周辺の道路等から見えにくくする。</p>	<p>パネルの傾斜角度を10度とし、道路から裏面が見えにくくした。</p>

項目		検討事項	配慮する内容
太陽電池 モジュール	材料・ 色彩等	(1) 低反射のものを選択するか防眩処理を施す等、太陽光の反射を低減する対策を行う。また、素材の結晶が目立たないものを選択する。	光の反射による眩しさを抑える仕様の製品を選択した。
		(2) 黒又は濃紺を基本とし、低明度かつ低彩度の目立たないものとする。	濃紺を選択した。
		フレーム	(1) 低反射の素材を用いる。 (2) 太陽電池モジュールと同系色を用いる。
附帯施設・ 附属施設	(1) フェンス等については、色彩、形態・意匠に配慮する。	フェンスの色は景観に配慮し、マンセル値10YR 6.0/1.0(グレーベージュ)とした。	
	(2) 電柱電線類については、極端に増加させないよう、低減に努める。	必要最低限の本数とするよう検討した。	
	(3) 架台、パワーコンディショナー及び変圧器等の付属設備については、色彩等に配慮する。	架台：マンセル値N7.5程度(グレー無彩色)、変圧器等付属設備：マンセル値10YR 6.0/1.0(グレーベージュ)、PCS：RAL9006(マンセル記号なしのためRAL表記とした)	
敷地の緑化	(1) 植栽計画にあたっては、効果が早期に発揮できるよう、根巻きを行った苗などの使用を検討するとともに、植栽間隔や苗木の大きさに配慮する。	植栽計画については関係行政、地元と協議のうえ、必要に応じて行う予定。	
	(2) 樹種の選定にあたっては、外来種及び低木性の樹種を避け、地域に適した植生とする。	植栽計画については関係行政、地元と協議のうえ、必要に応じて行う予定。	
その他	(1) 施設の規模が大きく主要な道路や住宅地に反射光の影響が懸念される場合は、配置や向き、傾斜の角度、材料、植栽等の遮へい措置について検討する。	隣接する道路への反射光の影響を考慮し、パネルの傾斜の角度を10度(斜面への設置は斜面角度と同等の20度)とした。	
	(2) 施設及び敷地内は、定期的に保守点検を行うなど、適切に維持管理を行い、景観の保守に努める。	20年間の維持管理計画を立て、それに沿って管理を行う。	
	(3) 事業区域場所の景観行政団体の定める景観育成基準への適合を確認する。	麻績村役場と松本建設事務所と景観育成基準に適合していることを確認した	

上記以外でも、設置箇所周辺の土地利用状況、周辺景観の状況に応じて、より効果的な配慮方法を工夫してください。

任意眺望点



任意眺望点からの景観



維持管理計画

作成日 2024年7月5日

太陽光発電施設の設置場所	長野県東筑摩郡麻績村麻字池ノ平 5102-2 他 9 筆	
事業者名 (法人にあつては、主たる事務所の所在地、名称、代表者の氏名、住所及び連絡先)	長野県長野市大字中御所字岡田 178 番地 8 八十二 Link Nagano 株式会社 代表取締役 社長 神谷 健一 026-225-6482	
保守点検責任者	氏名及び住所	株式会社シーテック 名古屋市緑区忠治山 101
	電話番号	052-710-9282
合計出力	1,625.0kW (太陽電池の合計出力 2208.96kW)	
維持管理の内容	別紙のとおり	
施設撤去予定日 (事業終了予定日)	2045年10月14日	
損害保険の加入状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 (保険内容 自然災害 電氣的・機械的事故の対応)	
太陽光発電施設を撤去する際の対応	・太陽光発電施設の処分は廃棄物処理業者に依頼する予定	
維持管理計画及び状況の公表方法	情報開示請求があつた場合は速やかに開示する	

※標識に掲示することにより公表する場合には、標識の記載項目と同一のところは記載を省略することができます。

<太陽光発電施設等の周辺において土砂災害等が発生するおそれがある場合に予定している措置の内容>

○強風により飛散

- ・太陽電池モジュール、架台の固定部に緩みがないこと、基礎などが強度不足になるような劣化がないことを保守点検項目に従い巡視を実施する。

○豪雨による水害

- ・土砂崩れ等の兆候がないか、排水機能に異常がないか、保守点検項目に従い巡視を実施する。また、台風や豪雨後には、定例巡視とは別に土砂崩れ等が発生していないか、排水設備の異常がないか等巡視を実施する。

<土砂災害等により太陽光発電施設の損壊が生じ、又は周辺地域の環境の保全に支障が生じた場合に予定している措置の内容>

- ・事故・災害が発生した場合には、迅速に状況を把握し、関係機関 (経済産業省、県、村など) に連絡をする。

- ・土砂の流出やパネルの飛散など周辺環境に影響を及ぼした場合は、速やかに対処し、二次災害が発生しないよう対策を講じる。

<別紙>

太陽光を電気に変換する施設

対象	該当の有無	点検箇所	点検項目	点検方法	点検頻度	点検実施日
太陽電池アレイ	☑	太陽電池モジュール	表面及び裏面に著しい汚れ、きず、破損がない。	目視	年2回	
			端子箱に破損、変形がないか		年2回	
			フレームに著しい汚れ、きず、腐食、破損がない。		年2回	
	☑	コネクタ	破損、変形がなく確実に結合されている。		年2回	
	☑	ケーブル	配線に著しい汚れ、さび、腐食、きず、破損がない。		年2回	
			配線に過剰な張力、余分な緩みがない。		年2回	
	☑	電線管	破損、変形、汚損、腐食がなく正しく固定されている。		年2回	
	☑	接地線	接地線に著しい破損、断線がなく正しく接続されている。		年2回	
			接続部に緩み、破損がない。		年2回	
	☑	架台	基礎に著しいひずみ、損傷、ひびなどの破損が進行していない。		年2回	
架台の変形、きず、汚損、さび、腐食、破損がない。			年2回			
積雪による沈降、不等沈降、地際腐食等などの影響がない。			年2回			
ボルト、ナットの緩みがない。			年2回			
固定強度に不足の懸念がない。			年2回			
接続箱	☑	本体	著しい汚損、さび、腐食、破損、変形がない。	年2回		
			固定ボルトなどに緩みがなく確実に取り付けられている。	年2回		
			雨水、じんあい等の侵入がない。	年2回		
☑	配線	配線に著しい汚損、破損、きず、さびがなく正しく固定されている。	年2回			
漏電遮断器	☑	本体	著しい汚れ、さび、腐食、破損、変形などがない。	年2回		
	☑	配線	配線に著しいきず、破損がない。	年2回		
パワーコンディショナー	☑	本体	著しい汚れ、さび、腐食、きず、破損、変形がない。	年2回		
			固定ボルトなどに緩みがなく確実に取り付けられている。	年2回		

			コーキングなどの防水処理に異常がなく雨水などの侵入がない。		年2回	
			運転時の異常な音、振動、臭い、加熱がない		年2回	
	<input checked="" type="checkbox"/>	配線	配線に著しい汚れ、破損、汚れ、さび、腐食、破損などがない。		年2回	

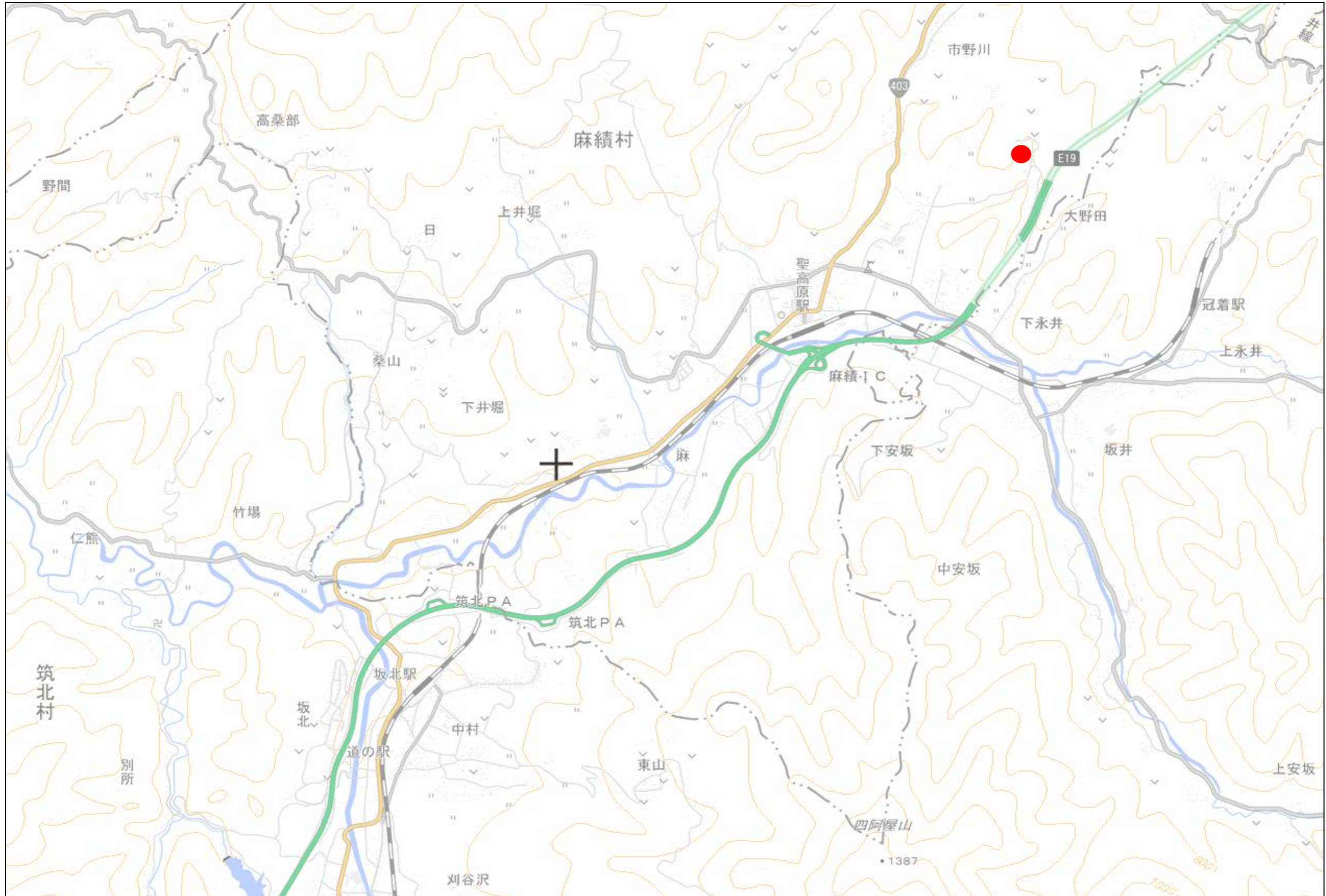
附帯施設

対象	該当の有無	点検箇所	点検項目	点検方法	点検頻度	点検実施日
法面・擁壁	<input checked="" type="checkbox"/>	切土法面	小段の沈下がない。	目視	/	
			排水溝の損傷がない。		年2回	
			目地にずれがない。		/	
			開口量の大きな亀裂が発生していない。		年2回	
			吹付工法等の剥離がない。		/	
			法枠工法等の破断がない。		/	
			はらみ出しの発生がない。		年2回	
			大量の湧水（濁り）がない。		年2回	
			崩落がない。		年2回	
			上部斜面からの土砂流出がない。		年2回	
	<input checked="" type="checkbox"/>	盛土法面	小段の沈下がない。	/		
			段差が発生していない。	年2回		
			排水溝の損傷がない。	年2回		
			法尻の崩落がない。	年2回		
			オーバーフローによる洗掘がない。	年2回		
			大量の湧水（濁り）がない。	年2回		
			湧水箇所の軟弱化がない。	年2回		
			擁壁	亀裂、割れが生じていない。	/	
		座屈、段差、傾斜がない。	/			
つなぎ目にずれがない。	/					
水抜き穴につまりがない。	/					
水抜き穴から異常な土砂流出がない。	/					
地山に変形がない。	/					
排水設備	<input checked="" type="checkbox"/>	排水溝、枡	水路に落下物等のつまり、堆積がない。		年2回	
			亀裂、ずれがない。		年2回	
			破損がない。		年2回	
			排水設備外への漏水がない。		年2回	
調整池	<input type="checkbox"/>	堤体	上下流の法面に崩れ、亀裂、損傷、陥没、漏水がない。		/	
			堤頂に亀裂、沈下、損傷、陥没、漏水がない。		/	

			草木の繁茂がない。		
	<input type="checkbox"/>	基礎	堤体の基礎に漏水、地山のはらみ出し、沈下、崩壊がない。		
	<input type="checkbox"/>	余水吐き	導流水路に亀裂、損傷、劣化、継ぎ目の開きがない。		
			越流部に亀裂、損傷、劣化、継ぎ目の開きがない。		
			放流水路に亀裂、損傷、劣化及び継ぎ目の開きがない。		
	<input type="checkbox"/>	放流施設	規定の放流先以外への漏水、土砂の流出がない。		
			呑口部に亀裂、損傷、劣化、継ぎ目の開きがない。		
			吐き口に亀裂、損傷、劣化、継ぎ目の開きがない。		
			油等の浮遊がない。		
	<input type="checkbox"/>	貯留部	法面に崩れ、亀裂、破損、湧水がない。		
			天端に損傷、沈下、陥没、損傷がない。		
			貯留部低地に著しい土砂の堆積がない。		
			油等の浮遊がない。		
			下流河川（周辺）に洗掘、崩壊がない。		
防護柵、塀	<input checked="" type="checkbox"/>	フェンス（防護柵）	著しいさび、きず、破損、傾斜がない。	年2回	
	<input checked="" type="checkbox"/>	標識（事業計画、注意喚起）	視認性を損なう汚れ、文字の色落ち、擦れ、破損がない。	年2回	
	<input checked="" type="checkbox"/>	入口扉	開閉に異常がなく施錠に問題がない。	年2回	
進入路・管理道	<input checked="" type="checkbox"/>	通路等	周辺からの土砂の流入、堆積がない。	年2回	
			事業地周辺への土砂の流出がない。	年2回	
			雨水等による洗掘がない。	年2回	
			草木の繁茂がない。	年2回	
設置地盤	<input checked="" type="checkbox"/>	舗装あり地盤	亀裂、剥離がない。	年2回	
			段差、傾斜がない。	年2回	
			空洞の発生（土砂の流出）がない。	年2回	
			隆起の発生がない。	年2回	
設置地盤	<input checked="" type="checkbox"/>	舗装なし地盤	周辺からの土砂の流入、堆積がない。	年2回	
			事業地周辺への土砂の流出がない。	年2回	
			雨水等による洗掘がない。	年2回	
			草木の繁茂がない。	年2回	

位置図

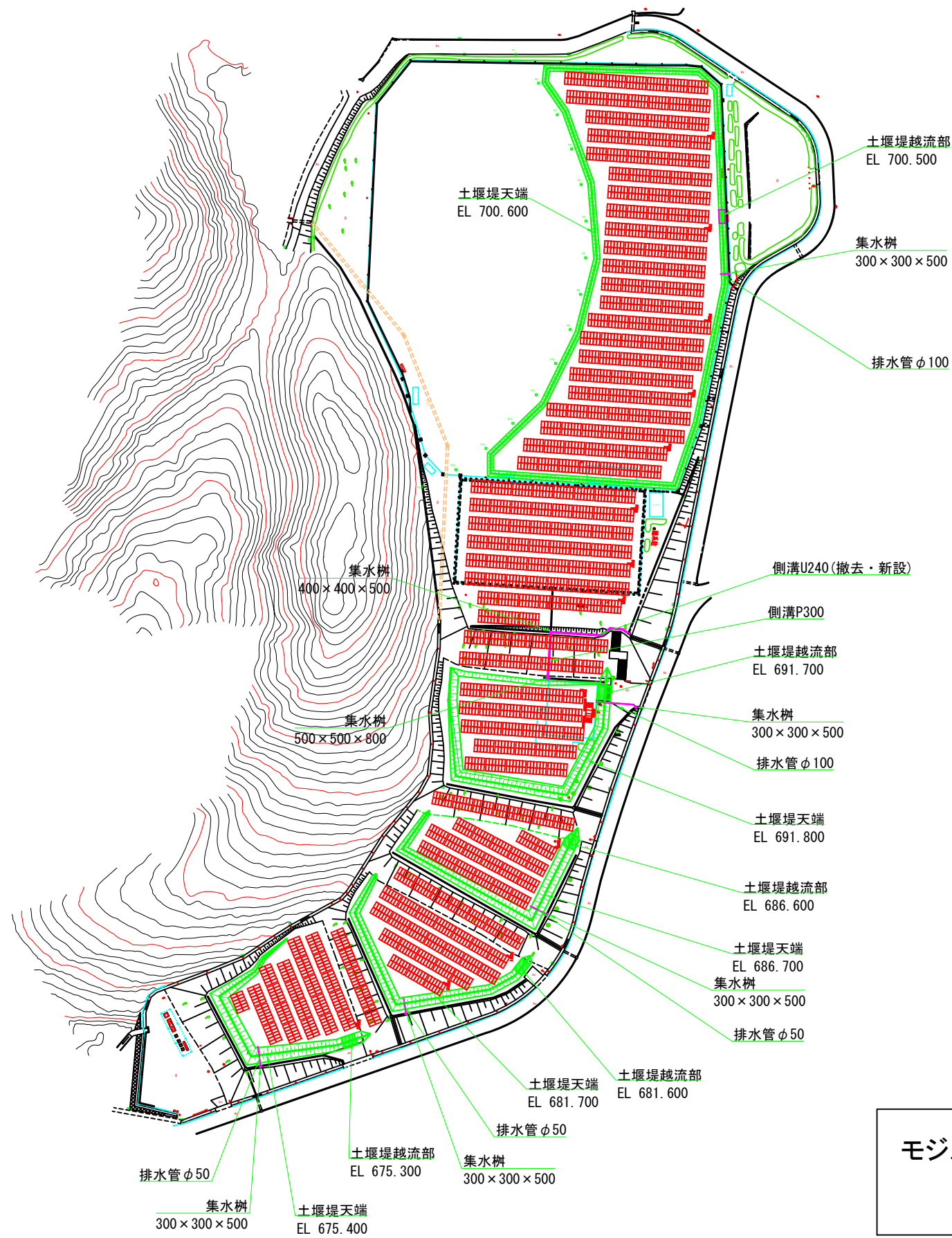
● 事業区域



事業区域図



機器配置図



モジュール出力: 2,208.96KW (590W × 3,744枚)
 発電所出力: 1,625KW (125KW × 13台)

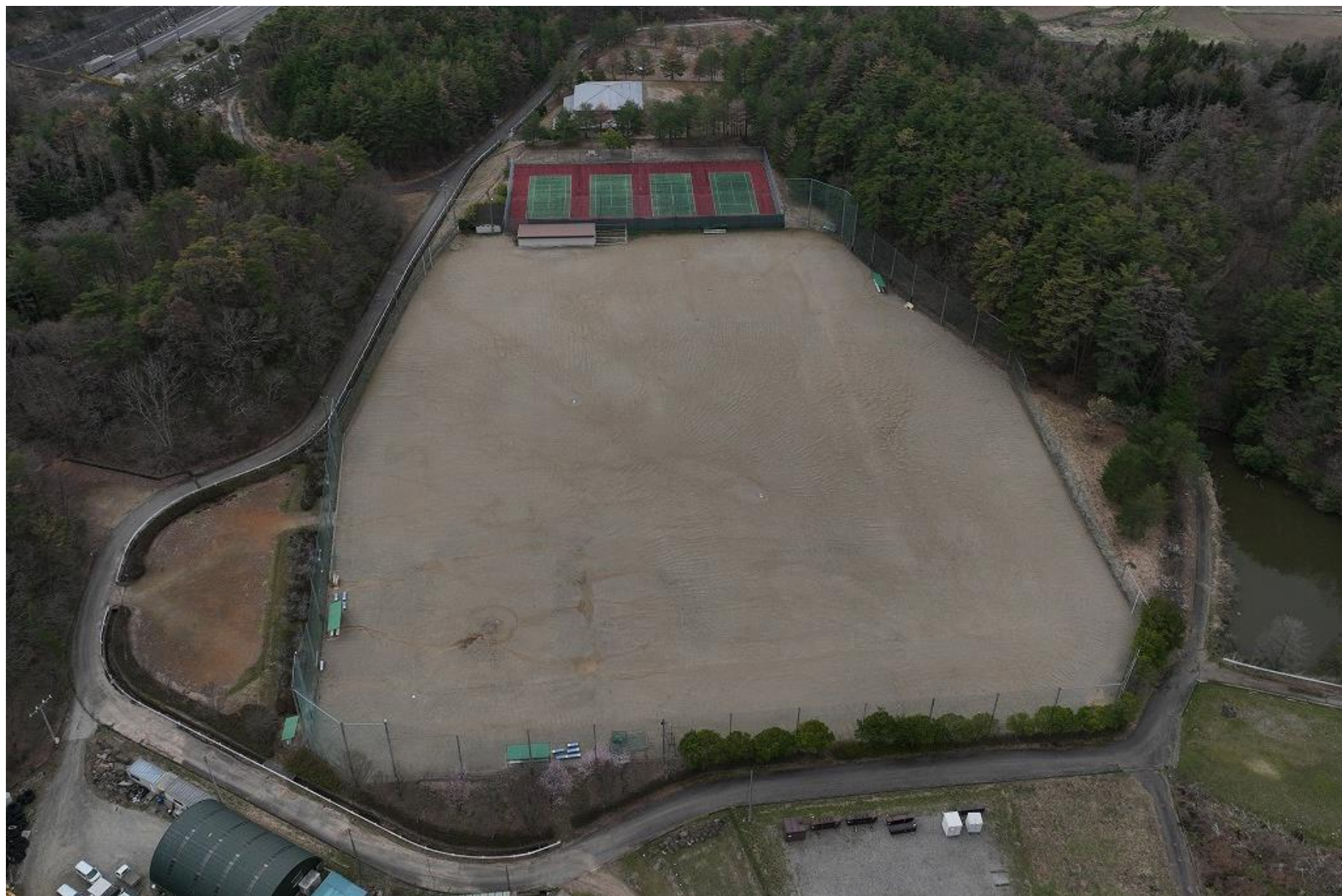
現況写真 撮影範囲（事業区域）



事業区域全体



事業区域北側



事業区域南側



(参考様式) (第11条・第13条関係)

事業基本計画説明状況書

2024年7月26日作成

事業者の住所・氏名 (法人にあって、主たる事務所の所在地、名称及び代表者の氏名)	八十二Link Nagano株式会社 代表取締役 社長 神谷 健一	
事業太陽光発電施設の設置の場所	別紙のとおり (設備ID) なし	
説明会開催についての周知の方法とその範囲	区長への説明及び、県ホームページへの掲載による。 地元自治区である梶浦区および事業区域からおおむね100m以内の土地又は建設物を所有する者。	
説明会の概要	日時	2024年7月24日
	場所	オンライン開催
	参加者数	0人
	説明を行った者の氏名(法人にあっては、氏名及び役職名)	八十二Link Nagano株式会社 電力事業部長 坂本 智徳

注1 説明会を2回以上開催した場合は、説明会ごとに作成すること。

(添付資料) 1 説明会で配布した説明資料

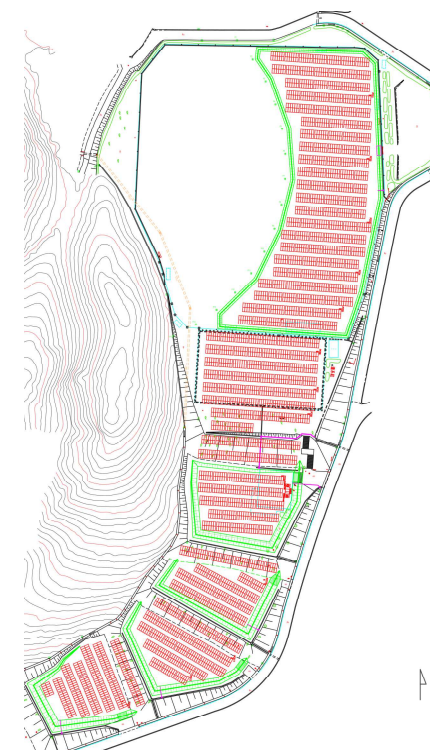
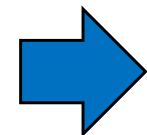
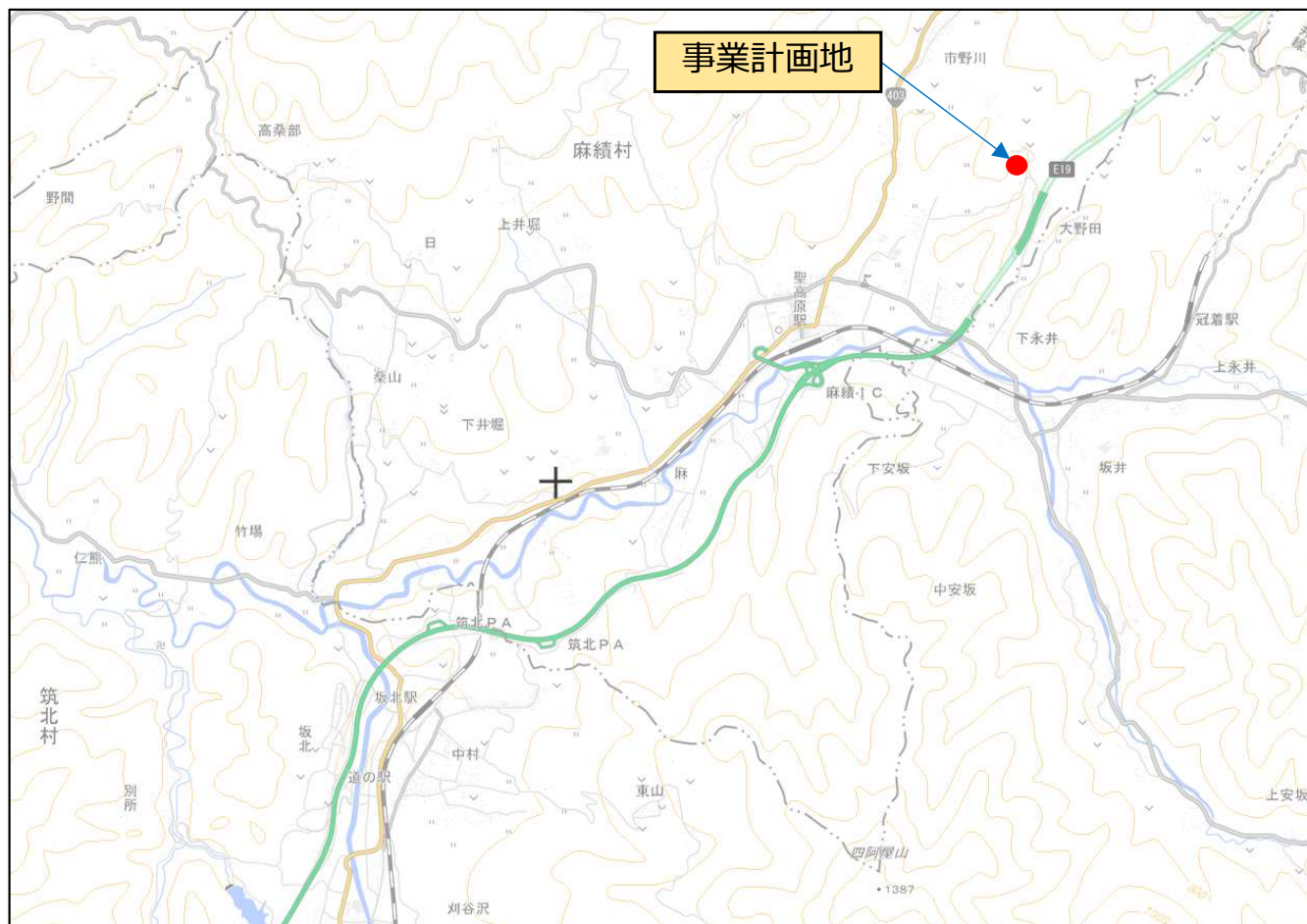
2 説明会で説明した内容、参加者の要望及び意見並びにそれらへの回答等について具体的に記載した議事録

(仮称) 八十二麻績発電所 計画概要について

2024年7月

 **八十二Link Nagano株式会社**

本事業の計画



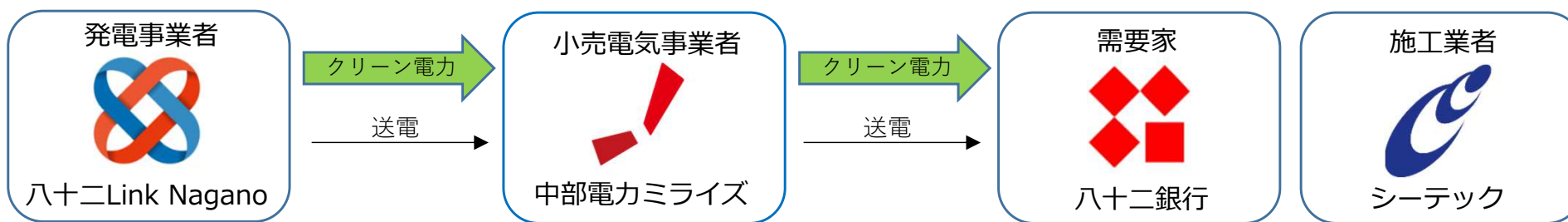
名称	麻績グラウンド
面積	約32,600m ²
住所	長野県東筑摩郡麻績村麻字池ノ平5102-2 他15筆

★八十二銀行所有の遊休地を太陽光発電所として利活用いたします。

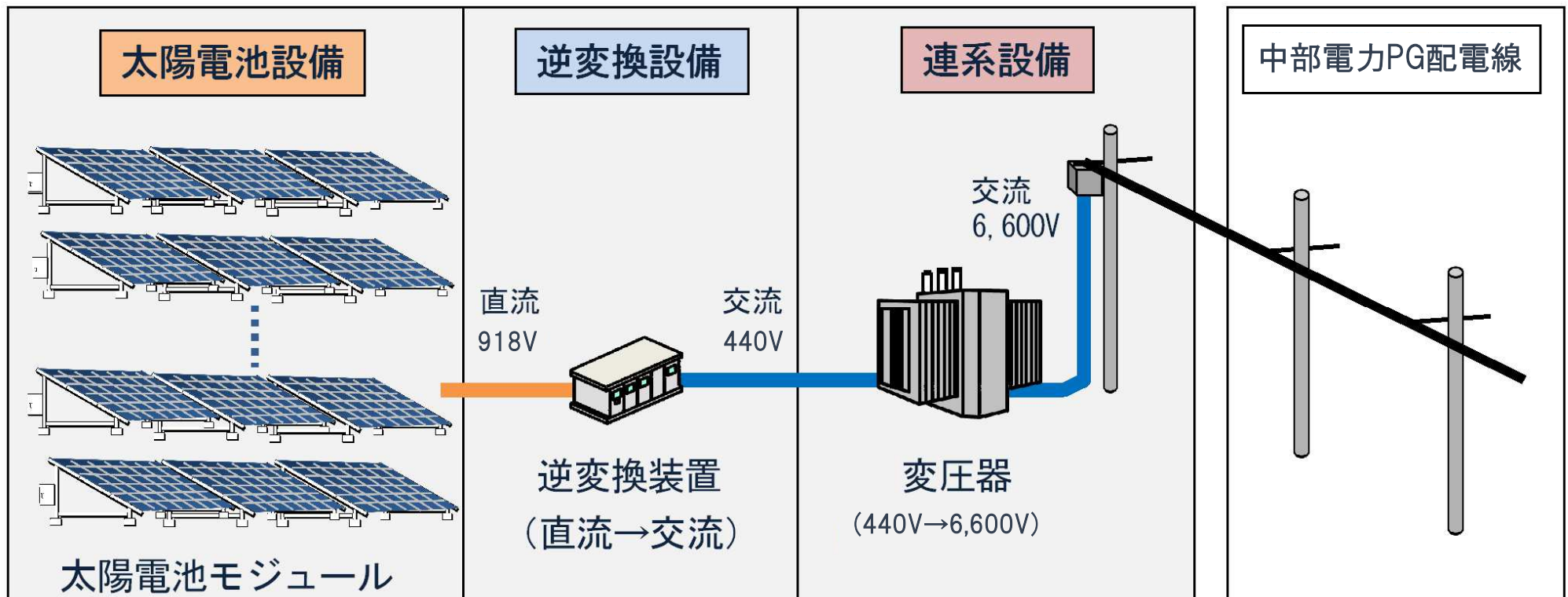
太陽光パネル設置イメージ

発電所の概要（案）

項目	諸元
事業主体	八十二Link Nagano株式会社（八十二銀行100%子会社）
設置場所	長野県東筑摩郡麻績村麻字池ノ平5102-2 他9筆
PV出力（太陽光電池モジュール）	2,208kW（パネル枚数：3,744枚）
発電所出力（パワーコンディショナー）	1,625kW
年間想定発電量	約286万kWh
需要家	株式会社八十二銀行
小売電気事業者	中部電力ミライズ株式会社
施工業者	株式会社シーテック（中部電力グループ）
運転開始予定	2025年10月
太陽光モジュール	JINKOSolar
パワーコンディショナー	HUAWEI



設備構成 (電気の流れ)



工程（予定）

八十二麻績発電事業 工程表

※冬季は積雪状況を考慮し、作業を実施

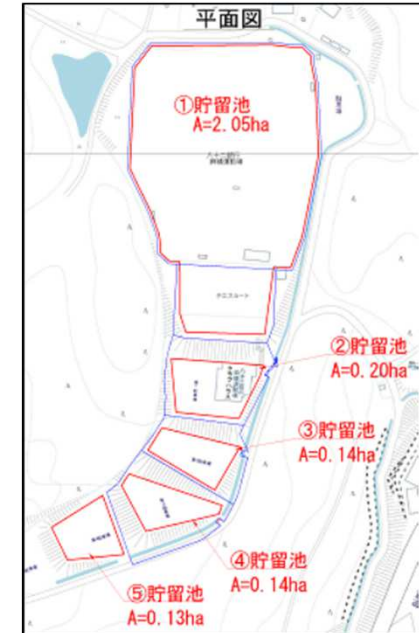
	2024年 8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
排水対策工事																	
伐採工事																	
基礎工事 杭打ち																	
モジュール 取付工事																	
電気工事																	
系統連系工事																	
運転開始																	

(参考) 排水対策

- ・太陽光発電施設設置後において、下記の設計条件による雨水を貯留できるよう外周を土堰堤で囲んだ貯留池を検討した結果は以下のとおり
- ・設計条件…降水量：250mm/6時間、500mm/2日間
 ※降水量観測所「聖高原」のデータより、観測史上最大である令和元年10月12日の降水量242.0mmが6時間で降ったことを考慮し、250.0mmならびに安全側で約2倍の500mmを条件とした。）

(1) 太陽光発電施設設置後の各貯留池における雨水貯水量

施設名	面積 (ha)	外周 (m)	高さ (m)	雨水貯水量 (m ³) (面積 × 10 ⁴ × 高さ)
貯留池①	2.05	590	0.50	10,250
貯留池②	0.20	121	0.90	1,800
貯留池③	0.14	104	1.00	1,400
貯留池④	0.14	103	1.00	1,400
貯留池⑤	0.13	106	0.40	520



(2) 太陽光発電施設設置後の流出雨水量と雨水貯水量の比較

施設名	流出雨水量		記号	雨水貯水量 (m ³)
	6時間降雨時 (m ³ /6時間)	2日降雨時 (m ³ /2日間)		
太陽光発電施設①	4,955	9,884	<	10,250
太陽光発電施設②	855	1,711	<	1,800
太陽光発電施設③	652	1,296	<	1,400
太陽光発電施設④	676	1,348	<	1,400
太陽光発電施設⑤	203	397	<	520

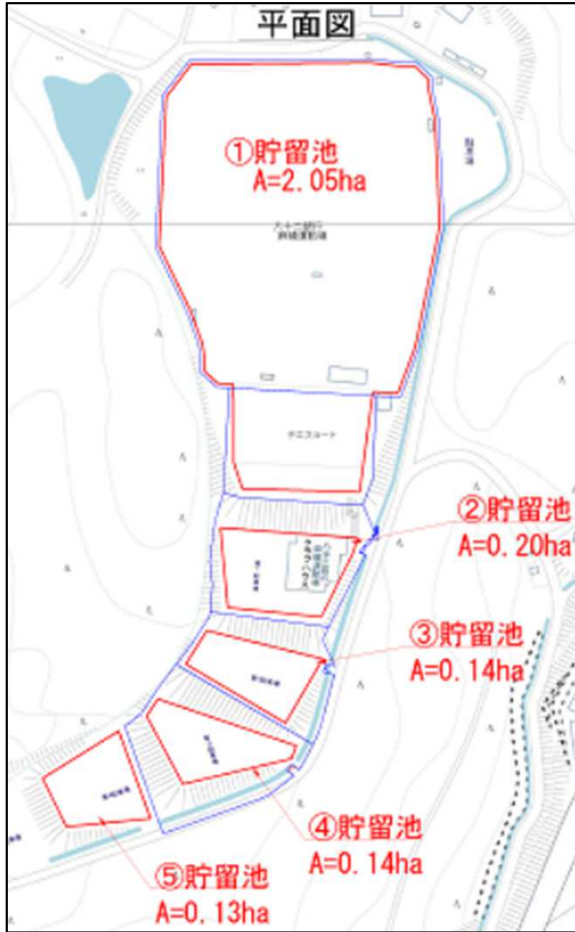


(3) 検討結果

聖高原における観測史上最大の降水量より、さらに安全側である約2倍の降水量を考慮した場合においても、貯水可能な設計である。

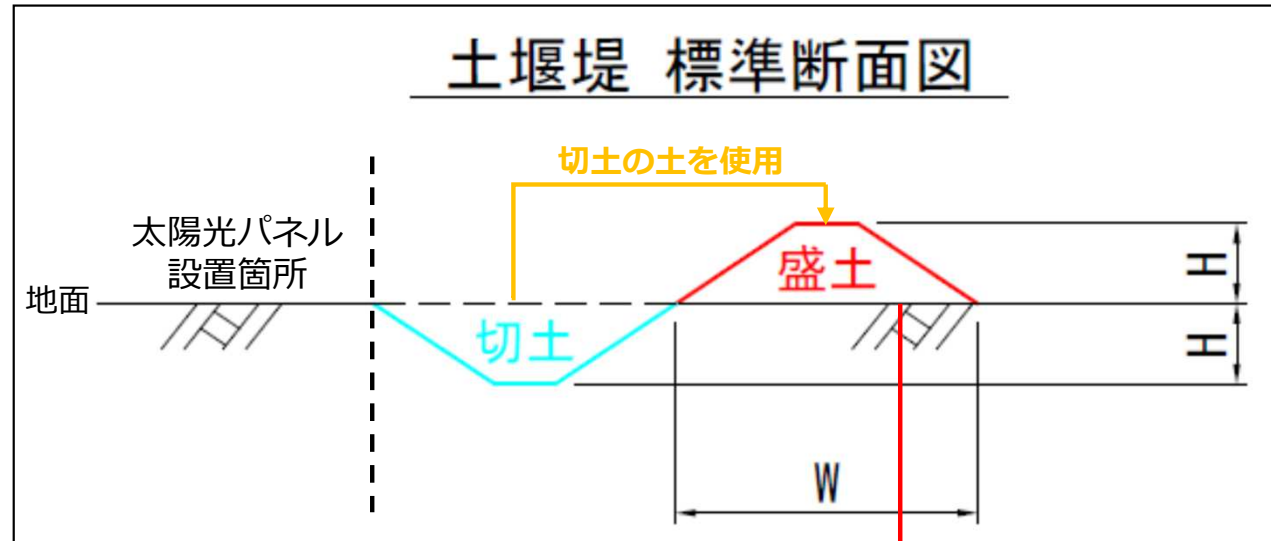
(参考) 排水対策

- ・土堰堤の盛土は発電所外周全体に行い、大量の雨水が外部へ流出しないように設計する。
- ・盛土は切土部分の土を使用する。発電所全体を貯水池とするが、第一に切土部分に貯水されることになる。
- ・太陽光パネルは、盛土・切土箇所ではない平らな面に設置する。



単位：m

施設名	外周	幅(W)	高さ(H)
貯留池①	590	1.8	0.50
貯留池②	121	3.0	0.90
貯留池③	104	3.3	1.00
貯留池④	103	3.3	1.00
貯留池⑤	106	1.5	0.40



盛土のイメージ図 (※切土なし)

(参考) 排水対策

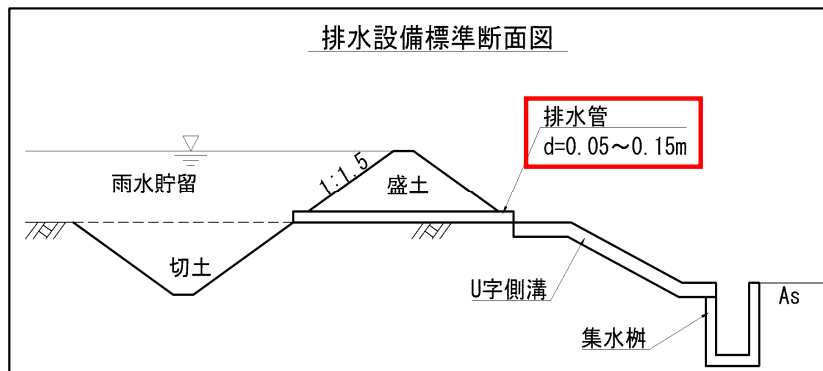
- 太陽光発電施設の保安のため、貯留池に一時貯留した雨水を排水できるよう各貯留池に排水管を設置する。
なお、排水管は、排水量が現況（現状の施設）における流出雨水量よりも少なくなる径を選定する。

(1) 各貯留池に排水管を設置した場合の排水量の算定

Q_d : 水深が最大時の排水管からの排水量 (m^3/s)

H : 水深 (m)、d : 排水管径 (m)

施設名	H (m)	d (m)	Q_d (m^3/s)
排水管①	0.50	0.15	0.0553
排水管②	0.90	0.10	0.0330
排水管③	1.00	0.05	0.0087
排水管④	1.00	0.05	0.0087
排水管⑤	0.40	0.05	0.0055
合計	—	—	0.1112



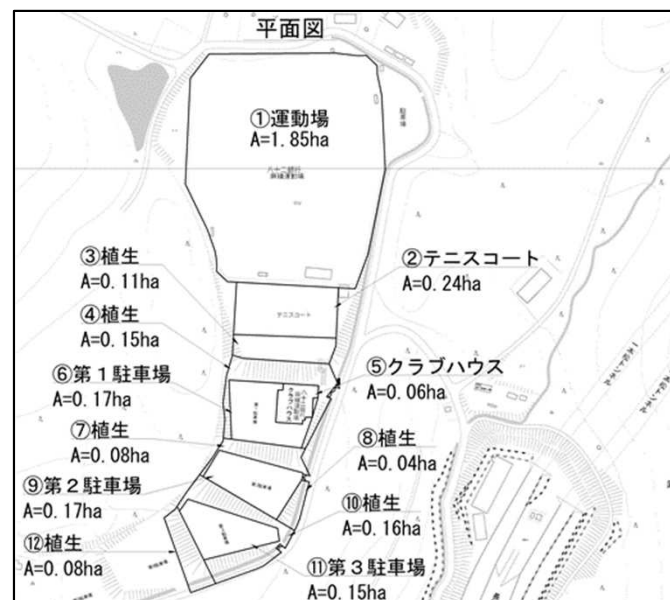
(2) 現況の流出雨水量算定

令和元年10月12日に記録した約250mm/6時間の

①～⑫の施設における合計流出雨水量：0.1927 m^3/s

(3) 現況の流出雨水量と排水管からの排水量の比較

現況の流出雨水量	記号	排水管からの排水量
0.1927 (m^3/s)	>	0.1112 (m^3/s)



(4) 検討結果

排水管からの排水量は現況の流出雨水量より約42%減となる。